

北海道雄武高等学校

課程 全日制
 学科 普通科
 生徒数 108名

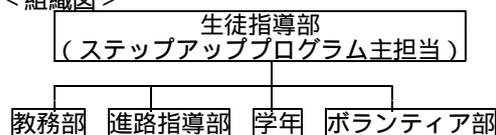
1 取組の特徴

ピア・サポートトレーニングを、HR単位や全校生徒で実施することにより、生徒がピア・サポーターの資格を取得したり、校外でのサポート活動やグループワーク、小学生との交流などに積極的に参加したりして、生徒同士が互いにサポートしあう環境づくりに取り組んでいる。

2 取組のねらい

幼少期から固定的な友人関係や複雑な家族関係・人間関係に悩み、自尊感情の低い生徒が多く見られることから、コミュニケーションスキルを身に付けさせたり、自尊感情を高めさせたりするなどして、生徒同士の理解の深化や良好な人間関係づくりを目指すとともに、不登校や中途退学の未然防止に努める。

<組織図>



3 取組の経過

4月	児童センターでのピア・サポート (毎月1回実施) ピア・サポート研修会(年間11回実施)	9月	アセスの実施(全学年) 外部講師による教員研修会 小学生と高校生の交流会
5月	学級環境適応調査(アセス)の実施 (全学年)	11月	外部講師によるピア・サポート学習会 (1・2学年)
6月	ピア・サポートトレーニング(1学年) 宿泊研修におけるトレーニング 保健講話におけるトレーニング 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 (2学年)	12月	外部講師による教育相談研修会 外部講師によるピア・サポート学習会 (全学年)
7月	ピア・サポートトレーニング(1学年)	2月	外部講師による教育相談研修会 ピア・サポートトレーニング(1学年) アセスの実施(1・2学年)
8月	ピア・サポートトレーニング(1学年)		

4 取組の内容

1 生徒理解に向けた取組(アセス・ほっとの実施)

昨年と同様に2月、5月、9月にアセスを実施し、前年度の結果と比較し、時間経過及び成長段階に応じて「要サポート」の度合いの変化等を分析して、生徒個人及びHRの状況などの理解に努めている。

分析結果から、「教師サポート」や「友人サポート」に関しては全てのHRにおいて上昇が見られ、学校適応感の満足度が上昇してきている。また、2・3年生においては全てのHRで「向社会的スキル」が前年度同時期よりも上昇し、自分の将来を前向きに捉える傾向が見られてきた。また、「非侵害的關係」がほとんどのHRで上昇し、HR内での友人関係が良好であることがうかがえる。以上のことから、高校生ステップアッププログラムの取組は居心地の良い学校・HRをつくる上で、重要な取組となっている。

4 取組の内容

2 外部講師によるピア・サポート学習会（11月、12月実施）

(1) ねらい

ア 相手に自分の気持ちや意見を伝えるための技法を学ぶ

イ 相手の意見をしっかりと受けとめる心構えなどを学ぶ

(2) 対象 全校生徒、保護者、町の教育関係者、本校職員

(3) 内容

講師の指導のもと、アサーションについて学習し、学年縦割班で新聞記事を使ったゲーム形式の活動や、話しやすい人や相談しやすい人とはどのような人なのかを話し合った。ドラえもんの登場人物を例に、3つのタイプの自己表現（ノン・アサーティブ、アグレッシブ、アサーティブ）の説明を受けた。演習では、ロールプレイングの手法を用いて話に割り込まれた時の自己主張の方法を全体で確認し、図書室で騒いでいる人に対するアサーティブな自己主張についてグループ討議を行った。学習会をとおして、言い方によって相手の対応に違いが生じることについて学んだ。

(4) 成果等

ア 生徒は他学年との活動に積極的に取り組み、各班に配置したサポーターが率先して進行し、以前より集団で学習を進めようという雰囲気が見られるようになった。

イ 生徒間で分け隔てなく会話（聴く・話す）ができるようになり、スムーズなコミュニケーションが図られるようになった。

(5) 生徒の感想

私は普段から相手の納得が得られるように自分の気持ちを伝えようと考えているのですが、今回のステップアップ・プログラムでは自分の考えていた方法とは違った言い方もあったり、他の人と接する手段を増やすことができたり、とても勉強になりました。また、グループワークでの話し合いで他の学年の人とも話すことができ、いろいろな考えを聞くことができました。

3 教員校内研修会(9月、11月、12月実施)

3回の研修会では、スクールカウンセラーを講師に、生徒理解やコミュニケーション力の向上の取組、不登校生徒への関わり方や教育相談の在り方などについて、小中学校の教員も参加し実践例を交えた研修を行った。



5 次年度に向けて

1 成果

(1) 中学時代に、不登校や保健室登校者だった生徒が高校入学後には、通常の学校生活ができるようになった。

(2) 学級環境適応調査(アセス)及び子ども理解支援ツール「ほっと」の実施により「教師サポート」は担任による個別面談や教科指導を行うことで、また、「友人サポート」及び「非侵害的關係」はピア・サポート活動などを行うことで改善することが分かった。

(3) 保健室来室者の件数は4割以上減少し、相談時間についても短縮が見られた。

(4) 生徒には、「相手の立場になって考えた言動をする」「日常的にピア・サポート活動を実施する」といった意識面での変化が認められ、トレーニングをすると「優しくなれる」「積極的にコミュニケーションができる」という感想が聞かれることから、自己理解を深め、自己改善の手法を身に付けたことがうかがえた。

2 課題

(1) 生徒理解に関わる調査の継続実施と調査結果の活用。

(2) 小・中・高の生徒間及び教員間の連携強化。

(3) 授業や日常生活でのコミュニケーション力向上に向けた言語活動の強化。

(4) 生徒がピア・サポーターの資格を取得するために必要な養成研修時間の確保。

3 次年度に向けて

(1) 生徒理解を深める個人面談・教育相談の充実。

(2) 生徒(ピア・サポーター)による中学校でのピア・サポートトレーニングの実施。

(3) コミュニケーションスキルを高めるための、ピア・サポートトレーニングの継続。